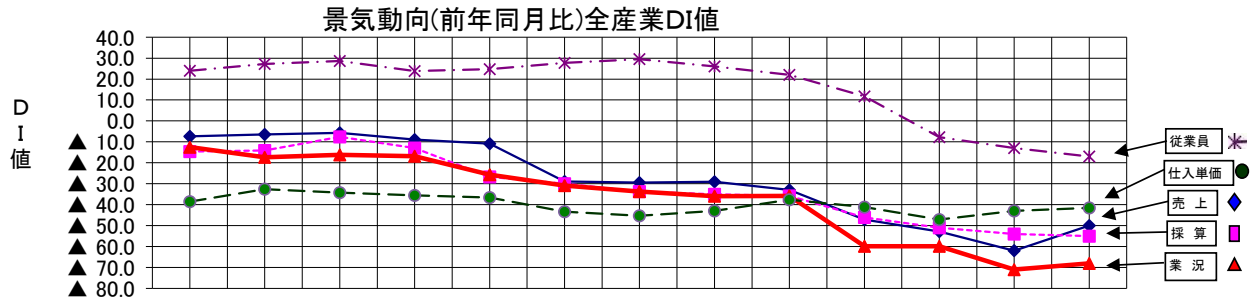


早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 6月分

【6月の概要】最悪期を脱するも依然低水準。しばらくは「守りの姿勢」強いられる見込み

5月の業況判断に比べると、業況DIでは売上・業況・仕入単価で改善し、採算・従業員は悪化。先行き見通しDIでは仕入単価以外で改善した。少しずつ改善する傾向にはあるものの依然として低水準である。

新型コロナウイルス第1波の収束により、若干明るい声も聞かれるものの、新しい生活様式への対応による対策経費の増加や人件費負担の深刻さなど、苦しい経営事情が窺われる。様々な経済活動がゆるやかな回復軌道にはあるが、当面「守りの姿勢」が強いられることが見込まれる。



【全産業平均DI】※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

	2019年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	2020年6月
売上	▲ 7.3	▲ 6.5	▲ 5.7	▲ 8.9	▲ 10.9	▲ 28.9	▲ 29.5	▲ 29.0	▲ 33.0	▲ 47.1	▲ 52.9	▲ 62.0	▲ 50.0
採算	▲ 14.6	▲ 14.1	▲ 7.6	▲ 12.9	▲ 26.7	▲ 29.9	▲ 33.7	▲ 35.0	▲ 35.8	▲ 46.1	▲ 51.0	▲ 54.0	▲ 55.0
業況	▲ 12.5	▲ 17.4	▲ 16.2	▲ 16.8	▲ 25.7	▲ 30.9	▲ 33.7	▲ 36.0	▲ 35.8	▲ 59.8	▲ 59.8	▲ 71.0	▲ 68.0
仕入単価	▲ 38.5	▲ 32.6	▲ 34.3	▲ 35.6	▲ 36.6	▲ 43.3	▲ 45.3	▲ 43.0	▲ 37.6	▲ 41.2	▲ 47.1	▲ 42.9	▲ 41.5
従業員	24.0	27.2	28.6	23.8	24.8	27.8	29.5	26.0	22.0	11.8	7.8	13.0	17.0

・マイナス幅が減少したDI値：売上12.0ポイント、業況3.0ポイント、仕入単価1.4ポイント

・マイナス幅が増加したDI値：採算1.0ポイント、従業員4.0ポイント

全産業平均DI - 向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
4月	▲ 64.7	▲ 62.8	▲ 68.6	▲ 17.7	▲ 10.8
5月	▲ 54.0	▲ 54.0	▲ 62.0	▲ 2.0	▲ 16.0
6月	▲ 40.0	▲ 45.0	▲ 51.0	▲ 9.0	▲ 10.0

・見通しが改善したDI値：売上14.0ポイント、採算9.0ポイント、業況11.0ポイント、従業員6.0ポイント

・見通しが悪化したDI値：仕入単価7.0ポイント

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	管工事業	V字回復は期待できず、ゆるやかな上昇軌道を描くと思われる。
	リフォーム	ショールーム閉鎖やイベント中止、商談延期が相次いだり、徐々に来店数も売上も伸びてきた。
製造業	食品	広く浅く商売をしているため、なかなか元には戻りにくい。
	鉄鋼	新型コロナの収束と、経済の先行きが見えてこない。見通しが立たない。
卸売業	食品	第2波が来た時に今回と同じような対応では経営は深刻なものとなる可能性がある。
	紙製品	各種イベントが軒並み中止で、有力得意先である印刷業者の仕事が激減している。
小売業	生花	イベントや結婚式等のキャンセルで個人消費が約40%減。50%減までいくと倒産も危うい。
サービス業	広告	新型コロナウイルス収束も見通せず今後数ヶ月は悪化の一途をたどると思われる。
	ホテル	新しい生活様式で売上減と対策費用の負担増でダブルパンチ。
	タクシー	賃金は営業収入の数倍。融資金で繋ぐしかできない。数ヶ月続くと大変なことになる。